



TOKYO FORWARD 2025 文化プログラム

舞台『TRAIN TRAIN TRAIN』

振付・演出：森山開次 音楽：蓮沼執太 テキスト：三浦直之(口口)

“TRAIN TRAIN TRAIN”

多様な顔ぶれが列車に乗り込み、走り出す！

振付家・ダンサーの森山開次、音楽家の蓮沼執太らによる新たな舞台が誕生。
東京 2020 パラリンピック開会式も経験している2人に聞いた。

東京 2020 パラリンピック開会式（2021 年 8 月 24 日開催）から 4 年。演出・チーフ振付を担当した森山開次が開会式終了後ほどなくして描き下ろした 1 枚の絵をもとに、新たな舞台が立ち上がる。その絵とは、人間から動物までヴァラエティに富むキャラクターたちが、蒸気機関車に乗って旅する姿を描いたもの。

「開会式が飛行機の物語だったから、次は列車かな、と（笑）。パラリンピックでの様々な出会いを、何かしらに繋げていけたらという思いを形にしたんです。そうした願いは、開会式に関わった多くの人が抱いていたと思います」と森山は言う。

4 年前に、1964 年の東京五輪の際に作られた「パラリンピック讃歌」の編曲や坂本美雨が歌う楽曲「いきる」の作詞・作曲を手掛け、開会式ではパラ楽団の指揮を担当した蓮沼執太も、同様の思いだったと語る。

「1 回だけの祭典で終わらせず、活動を継続することが大切なのではないか」ということは、パラ楽団のメンバーとよく話していましたし、チャンスがあればそのメンバーを含むアンサンブルでの活動を意識して続けてきましたから、今回の話を聞いてぜひ！」

物語は、とある詩人が、不思議な蒸気機関車

「ムジカ」に乗って旅をし、女神やベートーベンを思わせる作曲家など個性あふれる乗客に出会っていくというもの。森山の構想をもとに、劇作家の三浦直之がテキストを書き、蓮沼が少しずつ作曲。アイデアを出し合いながら、作品を練り上げていく。始まったばかりのその作業でのお互いについて、森山は「クリエーションにおいて“音楽待ち”になると作業が止まるのですが、一方で音楽が先に全部カッチリ決まっているとそれに縛られてしまう。その点、蓮沼さんのデモ音源は、音の方から動きを指示する感じではなく、踊りとしてどうにでもなれる余地を残しつつ、確かめられる“空気”を入れてくれるような感じ。それが良かったんです」、蓮沼は「開次さんは、流れてくるアイデアをグッとキャッチして、どんどん形にしていく。僕は創造のパワーを持っている人が大好きですし、しかも伝え方が優しいんです」と述べるなど、相性は申し分ないようだ。

出演は、開会式で“片翼の小さな飛行機”を演じた和合由依のほか、坂本美雨、はるな愛といったパラリンピック以来のメンバーと、新たに加わるメンバーの、計 23 名。障害の有無を超えて、一つの舞台を作り上げる。

「例えば聴覚障害がある人には、僕が作ったも



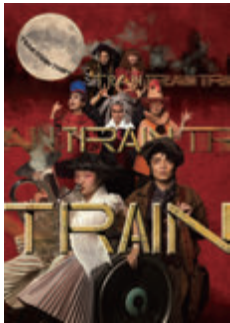
のは音としては届かないかもしれないけど、人の動きや情景の変化から“音”的なものを感じ取ってもらうことは可能なはずです。そういうふうに、はみ出してしまったものはほかで拾って伝えるといった芸術的な伝え方は確実にある。その眼差しを各々が持って取り組むことで、強い表現が生まれていくのではないかと思います」（蓮沼）

「開会式では、いろいろな障害を持つ方と創作をする中で、普段の自分がいかに一つのベクトルで物事を見ているかに、改めて気づかされました。舞台上でも客席でも、人によってこう見える／感じるといったことが違うし、そこにこそ尊さがある。ですから、情報保障をきちんとしつつ、多様な角度から楽しめる工夫を施していきたい。皆で乗り込んだこのトレインでどこまで行けるか、挑戦していきたいですね」（森山）

取材・文：高橋彩子（舞台芸術ライター）



©TK



11月26日⑥～11月30日⑧ プレイハウス 詳細はP10へ

振付・演出：森山開次 音楽：蓮沼執太 テキスト：三浦直之(口口)
出演：和合由依 岡山天音 坂本美雨 KAZUKI はるな愛 森山開次
大前光市 浅沼圭 岡部莉奈 岡山ゆづか 小川香織 小川莉伯
梶田留以 梶本瑞希 篠塚俊介 Jane 田中結夏 水島晃太郎 南帆乃佳

演奏：蓮沼執太 イトケン 三浦千明 宮坂遼太郎

スウィング：鈴木彩葉 田村桃子 中村胡桃



WAGO Yui



OKAYAMA Amane



SAKAMOTO Miu



KAZUKI



HARUNA Ai

